走れメロス (1)

太宰 治

メロスは激怒した。必ず、かの※邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の※牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。①今日未明、メロスは村を出発し、野を越え山越え、※十里離れたこの※シラクスの町にやって来た。メロスには父も、母もない。女房もない。十六の、内気な妹と二人暮らしだ。この妹は、村のある律儀な一牧人を、近々花婿として迎えることになっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣装やら祝宴のごちそうやらを買いに、はるばる町にやって来たのだ。まず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには②竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今はこのシラクスの町で、※石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく会わなかったのだから、訪ねていくのが楽しみである。③歩いているうちにメロスは、町の様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、町の暗いのはあたりまえだが、けれども、なんだか、夜のせいばかりではなく、町全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になってきた。道で会った若い衆を捕まえて、何かあったのか、二年前にこの町に来たときは、夜でも皆が歌を歌って、町はにぎやかであったはずだが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老爺に会い、今度はもっと語勢を強くして質問した。老爺は答えなかった。メロスは両手で老爺の体を揺すぶって質問を重ねた。老爺は、④辺りをはばかる低声で、僅か答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心をもってはおりませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、ご自身のお世継ぎを。それから、妹様を。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」

「驚いた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございませぬ。人を信ずることができぬ、というのです。このごろは、臣下の心をもお疑いになり、少しく派手な暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。ご命令を拒めば、十字架にかけられて殺されます。今日は、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」

※邪知暴虐…悪知恵を働かせ、残酷な仕打ちで人々を苦しめること。
牧人…ここでは羊飼いのこと。
十里…一里は約三・九キロメートル。
シラクス…地中海のシチリア島（現イタリア領）南東海岸にある港湾都市。古代ギリシア・ローマ時代から続く古い都市。
石工…石材を切り出したり、加工・細工したりする職人。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「未明」の意味を選びなさい。

ア 夜がまだ明けきらない頃（ころ）。
イ 夜が明けてから昼までの間。
ウ 夕方から日が沈（しず）むまでの間。
エ 日が沈んで深夜になる頃。

(2) ——線②「竹馬の友」の意味を選びなさい。

ア 馬が合う人　**イ** 競（きそ）い合う親友　**ウ** 幼なじみ

(3) ——線③「歩いているうちにメロスは、町の様子を怪しく思った」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 既に日が落ちて夜になり、町が暗かったから。
イ 二年前と違（ちが）い、町全体がやけに寂しいから。
ウ 質問しても、町の人々が何も答えないから。
エ 町に二年ぶりに来たので、不安になったから。

(4) ——線④「辺りをはばかる低声」とはどのような声か。適当なものを選びなさい。

ア 周囲に響（ひび）き渡（わた）るような低音の声。
イ 周囲に聞こえないように気づかった声。
ウ 周囲に遠慮（えんりょ）せず、語気を強めた声。

(5) メロスの説明として適当なものを選びなさい。

ア シラクスの町で生まれ育った牧人である。
イ 政治はわからないが、邪悪に対しては敏感である。
ウ 妹の結婚式が行われるシラクスの町にやって来た。